

# 2020 年度事業報告

自：2020年1月1日～至：2020年12月31日

公益財団法人スペシャルオリンピックス日本

## I. 基本方針

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、コロナ対応を前提とした事業計画の大幅な見直しを行うと共にスペシャルオリンピックス日本(SON)の新ビジョンに基づき、以下の方針で事業を実施した。

### 【SONのミッション、ビジョン】

#### <ミッション>

知的障害のある人たちに年間を通じて、オリンピック競技種目に準じた様々なスポーツトレーニングと競技の場を提供し、参加したアスリートが健康を増進し、勇気を奮い、喜びを感じ、家族や他のアスリートそして地域の人々と、才能や技能そして友情を分かち合う機会を継続的に提供すること。

#### <ビジョン>

スペシャルオリンピックス日本は、知的障害のある人々とのスポーツを通じた様々なユニファイド活動により、多くの気づきと行動を生み出します。

ステイトメント: 多様な人々が生きる社会の実現を目指す

スローガン: 「Be with all」

### 【総括】

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を強く受け、多くの事業を中止、自粛した一方、オンラインにシフトした事業展開や事務局のリモートワーク化、また、地区組織のスポーツ活動や運営についても、Web会議システム等の活用により、コミュニケーションの円滑化を図ることで、SO関係者の安全を確保しつつ、社会環境の変化に応じ、対応を図れたことは、コロナ禍の事業実施における一定の成果であったと考えている。

## II. 競技会開催事業

### 1. 2020年第7回スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム・北海道（開催中止）

2月21日(金)～23日(日)に開催を予定していた本大会については、2月17日(月)に危機管理委員会緊急会議を行い、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、安全な大会運営を行うことが極めて困難な状況であると判断し、中止を決定した。

大会直前での開催中止となったが、北海道の様々な団体との連携による広報啓発活動を展開することができたこと、また、札幌市との協働による特別支援学校と地元学生とのユニファイドボランティア参加に向けての取組みや、札幌市民に対する様々な広報活動等を通じ、札幌市を中心に北海道でのSO活動の認知訴求を図ることができ、今後の北海道でのSO活動推進につなげることができた。

#### 1) 開催趣旨:

全国各地で日常のスポーツプログラムに参加しているアスリートが、日頃のトレーニングの成果を十分に発揮できるような質の高い競技環境を提供し、様々なプログラムや交流会、宿舎での共同生活でのコーチや多くのボランティアとの触れ合い等を通して、アスリートが仲間との絆を深めながら自立と社会性を高める機会とする。また、本大会の準備と運営を通して、企業や福祉、教育、行政等の関係者とネットワークを構築し、障害の有無にかかわらず、互いの違いを理解し合い認め合い、多様な人々がともに育ち、共に生きるインクルージョン社会につながる機会を作り、大会で得た有形無形の遺産を生かし、今後の北海道におけるスペシャルオリンピックス活動の発展につなげる。

## 2) 大会スローガン

ともに生き、ともに<sup>ひら</sup>拓く

## 3) 大会ロゴ



アスリートと家族やボランティア、地域の人々が繋がる・参加する・ひとつになる、という「ユニファイド」を基として、モレウ文様と雪の結晶を組み合わせることにより、大自然が広がる雪の北海道をシンボル化。  
また、あらゆる障害に負けない精神を青。  
目的達成の歓び、生きる喜びを共感、共有するために必要な愛情をピンクとして、スペシャルオリンピックスの「競技会精神と使命」をロゴカラーで表現している。

北海道の方々だけに留まらず、たくさんの人々が大会を応援し、参加者の一人となって多くの繋がりを生み出すことで、新たな発見、新たな喜び、を今大会によって開拓してもらいたいという、熱い想いと志が込められている。

## 4) 主催 / 主管 / 運営主体:

主催 : 公益財団法人スペシャルオリンピックス日本

主管 : 特定非営利活動法人スペシャルオリンピックス日本・北海道

運営主体 : 2020年第7回スペシャルオリンピックス日本 冬季ナショナルゲーム・北海道実行委員会

## 5) 大会日程: 2020年2月21日(金)~23日(日)

## 6) 競技

アルペンスキー、スノーボード、クロスカントリースキー、スノーシューイング

ショートトラックスピードスケート、フィギュアスケート、フロアホッケー

## 7) 大会関連事業

記者発表、採火式、分火式、トーチラン(聖火リレー)

## 2. 2022年スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム 開催準備

2022年の夏季ナショナルゲームの開催について検討を行い、以下の事業を行った。

<招致プレゼンテーションの実施と主管地区、開催地の決定>

4月6日(月)Web会議システムを使用して、「2022年スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム」の招致プレゼンテーションを実施し、スペシャルオリンピックス日本・広島を主管地区とし広島県での開催を決定した。

大会名称:2022年第8回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・広島

日程:2022年11月4日(金)~6日(日)

<広島県、広島市への表敬訪問>

9月23日(水)、広島県知事を表敬訪問し、大会協力依頼とPRを行った。

## Ⅲ. 国際大会への代表選手団の派遣事業

### 2022年スペシャルオリンピックス冬季世界大会・カザン(派遣事業の中止)

2021年にスウェーデンで開催が予定されていた冬季世界大会は、SO国際本部より、開催時期及び開催場所の変更が発表され、2022年1月にロシアのカザンで開催されることとなった。

新型コロナウイルスの世界的流行に鑑み、本大会への日本選手団派遣については、組織内に設置した COVID-

19 対応検討会議が取りまとめた派遣事業の是非についての理事会提言を踏まえ検討した結果、安心安全な状態で選手団を派遣することが困難であるということから、本大会へ日本選手団を派遣しないことを決定した。

#### IV. 知的障害者の地域スポーツ活動振興の拠点となる地区組織等への支援事業

##### 1. 地区連絡協議会、全国事務局長会議(中止)

例年、本会議は対面集合型で行っていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止とし、当日、地区組織関係者に配布予定だった、事業関連資料やアスリート活動調査の情報等をデータにて配布した。

##### 2. 地区組織の認定及び更新、地区組織強化支援

###### <地区組織の認定更新>

各地区組織から提出された 2019 年度事業報告・決算報告、2020 年度事業計画・予算等の総会資料を精査し、また、世界共通で行われているアスリート活動調査等の提出をもって地区組織の認定更新を行い、認証状を交付した。

###### <地区組織強化支援>

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、スペシャルオリンピックスの活動は一時的に大会、競技会、会議、日常プログラムに至るまで、全ての活動を中止することとなったが、地区組織におけるスポーツプログラム等の活動再開に向けた留意点の公開や、各種会議のオンライン化、ウェビナー等を活用し SO 国際本部や国、日本障がい者スポーツ協会等からの情報を提供するなど、with コロナでの活動を行うための支援を行った。

##### 3. 地区組織自己評価基準の策定及び運用

約 30 項目の地区組織自己評価基準の運用を図ると共に、活動実績に応じ地区組織の顕彰を行った。地区組織自らが自地区の評価を行うことで、組織の成熟度や活動の進捗度を客観的に把握し、組織運営に対する意識を高めることができた。

##### 4. 地区委員会及びブロック連絡協議会の開催

###### <地区委員会>

全国 6 ブロックの代表者と SON の理事が出席する地区委員会を、オンラインにて毎月定例で開催し、年間を通じて設定したテーマ及び時宜に即したトピック等を議題として意見交換や情報共有を行った。定期的なコミュニケーションの機会を通じ、SON と地区間のコンセンサスを図ると共に、ブロック代表者が理解を深めながらブロック内の地区組織への情報展開や共有に努めた。また、地区委員会が中心となり、地区組織自己評価基準の見直しを行った。

###### <ブロック連絡協議会>

ブロック内の地区組織事務局及びスポーツプログラムに関する代表者が出席するブロック連絡協議会を、上半期、下半期の年 2 回開催し、SON が提示したテーマやブロック内の地区組織が共有する課題について意見交換を行った。例年、対面集合型で行っていたが、本年は新型コロナウイルス感染拡大の影響によりオンラインで開催した。これにより SON と地区組織、並びに地区組織間のコミュニケーションを円滑にすると共に、実践に基づく現場の知識・ノウハウの共有が図られ、全国ネットワークにおける情報共有と地区組織の現場における活動推進力が強化された。

ブロック名	上半期ブロック会議	下半期ブロック会議
北海道・東北ブロック	6月6日(土)	9月5日(土)
関東ブロック	6月28日(日)	12月12日(土)
東海・北信越ブロック	非開催	12月19日(土)
近畿ブロック	5月30日(土)	10月24日(土)
中国・四国ブロック	非開催	非開催
九州・沖縄ブロック	6月6日(土)	12月6日(日)

## 5. 助成

- 1) 地区競技会推進支援制度：1ブロックに61,000円を助成

本年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、ブロックでの競技会/大会の開催を推奨しなかった為、2020年1月から事業自粛勧告前(2月25日)の期間で、既に実施されたブロック競技会/大会へのみ助成することとし、以下1ブロックの競技会に対し助成を行った。

助成の対象となった大会・競技会	助成対象地区	助成金額
関東ブロックフロアホッケー競技会 ※2020年2月2日(日)に開催	SON・千葉	61,000円

- 2) 地域 SO 活動への特別助成：SON・新潟 400万円、SON・愛知 500万円

## V. 知的障害者のスポーツ参加及び健康増進推進事業

### 1. ユニファイドスポーツ®

<スペシャルオリンピックス日本 オンラインマラソン 2020>

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、競技会や日常のスポーツ活動の再開が困難な状況が続いていた中、全国の知的障害のあるアスリートの新たな目標や健康増進、そして、アスリートや SO 関係者等にスポーツを通じて、仲間とのつながりを感じ、継続的な SO 活動の参加の場を提供することを目的に、非対面型のオンラインマラソンイベントを実施した。

開催期間：2020年10月1日～12月10日(10週間)

走行距離：247222.74km ※地球6周の距離を走行(地球1周=4万km換算)

エントリー数：2,094名

<ユニス・ケネディ・シュライバー(※)・デー>

知的障害のある人も知的障害のない人も、共にコロナ禍を乗り越えて、再び一緒に笑顔でスポーツを楽しめる日がくるように、そして誰もが自分らしく生きられる社会を作り上げていくために、みんなの願いを込めた絵を集め、ひとつのモザイクアートを完成させる、「みんなでユニファイドボールを完成させよう！」キャンペーンをユニス・ケネディ・シュライバー・デーに実施した。

※ユニス・ケネディ・シュライバー：スペシャルオリンピックスの創始者

参加人数：304名(知的障害のある人：140名、知的障害のない人：164名)

<ユニファイドスクール>

#### ①東洋大学とのユニファイドスクール協働事業

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、東洋大学として課外活動を全面禁止にしたためゼミを中心とした活動に焦点を絞り実施した。

- 1) SON・東京 アスリートへのインタビュー

- 2) SON オンラインマラソン 2020 への参加
- 3) ユニス・ケネディ・シュライバー・デー・イベントへの参加

## ②キャリアチャレンジデイ

キャリアリンク株式会社主催のキャリアチャレンジデイに参加し、オンライン講義を実施した。

参加日：11月13日(金)、12月16日(水)

参加学校：尾道市立高西中学校、岡崎市立福岡中学校、能勢町立能勢中学校、  
太子町立中学校、茨城県立並木中等教育学校

## 2. ヘルシー・アスリート®(健康増進推進事業)

- ①SON 特設サイト「今できること」ページに健康管理に必要な資料(メンタルヘルス、口腔ケア等)を掲載し  
コロナ禍でも実施可能な健康管理情報を提供した。
- ②SON オンラインマラソン開催期間中に、アスリートへの啓発活動としてコロナウイルス関連情報やその対策  
(コロナの症状・手洗いの仕方等)、健康管理に必要な水分補給、栄養補給、ストレッチの方法等の情報を特設  
サイトに掲載し、SNS 上に健康管理に関するコラムを掲載した。
- ③オンラインヨガの実施  
コロナ禍における、アスリートの健康増進を目的に、オンラインでのヨガ講座を実施した。  
実施日：11月8日(日)  
参加人数：18名(アスリート・ファミリーペア)

## 3. アスリートアンバサダー

「アスリートアンバサダー」の取組をスタートさせ、知的障がいのあるアスリート自らが発信者となり、  
スペシャルオリンピックス 活動を全国に広める PR 活動を行った。

### <アスリートアンバサダー会議>

アスリートアンバサダー会議を、Web 会議システムを使用して、下記の日程で開催した。

- 日時：9月19日(土) テーマ「現在チャレンジしていること」
- 日時：10月17日(土) テーマ「SO 活動、友達について&広報活動でやってみたいこと」
- 日時：11月15日(日) テーマ「SO コーチについて」
- 日時：12月19日(土) テーマ「2020 年を振り返って」

### <アスリートアンバサダーによる PR 活動>

- ・SO アジアパシフィック「1000 Cranes for inclusion」企画への参加
- ・「SON オンラインマラソン 2020」への PR 参加
- ・「ちがたってなんだ? 障害について知る本」制作における出版社(株)学研プラスよりインタビュー

## 4. ヤングアスリート

2歳半から7歳まで、SO 活動でスポーツに参加する前の知的障害のある子供たちを対象に、  
楽しみながら身体を動かすことで発達を促し、スポーツをする基礎を作ることを目的としたプログラムの普及・  
推進に努めた。

- ・ヤングアスリートバックパックキット助成金を活用し、在宅用のバックパックキット 50 セットを企業ボランティア  
の協力により梱包し、対象となる知的障害児の家庭に提供した。
- ・ヤングアスリートアクティビティーガイド翻訳  
ヤングアスリートプログラムの普及推進のため、専門学校生のボランティア協力のもと同ガイドの翻訳を行った。

## VI. ボランティア、指導者、審判員等育成事業

### 1. 指導者養成(2月末以降、通常研修は中止)

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、緊急事態宣言以降、コーチクリニック等の指導者養成研修は自粛したが、各地区組織のボランティア、コーチを対象に、オンラインのウェビナーを通じてコロナ禍でのプログラム運営等に関する情報発信を行った。

#### <コーチウェビナー>

Web 会議システムを使用して、下記の日程で開催した。

日時： 10月31日(土) 第1回「コロナ禍におけるスポーツプログラム」参加人数:115名(29地区)

日時： 11月26日(木) 第2回「健康にスポーツを行うために」参加人数:107名(31地区)

日時： 12月10日(木) 第3回「アスリートの感覚器官の重要性」参加人数:99名(31地区)

### 2. スポーツプログラム委員会全国会議(中止)

新型コロナウイルス感染拡大の影響により同会議は中止したがスポーツプログラム委員会の活動として、コロナ禍におけるスポーツプログラム運営について、地区組織を対象にオンラインカンファレンスを開催した。主な内容は、コロナ禍でのスポーツプログラム運営上の注意事項やガイドラインの策定、危機管理体制の構築等に関する情報提供と共に、各地区で実施したスポーツプログラム再開の現状及び各地区組織・各競技の取り組み事例紹介等による情報共有を行った。

#### <オンラインカンファレンス>

Web 会議システムを使用して、下記の日程で開催した。

日時： 9月12日(土) 「コロナ禍におけるスポーツプログラム運営について」参加者:47地区代表者

## VII. 広報・啓発事業

競技会開催事業や各種事業を通じた広報活動を展開し、また、これらの事業に SON ドリームサポーターの参加・協力を得ること、また支援企業の協力を得て、広報・啓蒙イベント等を実施することによりスペシャルオリンピックスの広報価値向上に努めた。

### 1. 広報・啓発

TV、新聞等のマスメディアや WEB、SNS を用いて SO 認知の向上や SO 参加者とのコミュニケーションを図るための広報活動を行った。

#### 1) 2020 年第 7 回スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム・北海道の大会広報活動

##### ①アルバルク東京×SON 『Special Olympics Day』の開催(2020年1月5日)

ハーフタイム時にスペシャルオリンピックスチアとアルバルク東京チアの  
コラボでユニファイドチアを披露。有森大会会長、ドリームサポーター渡邊拓馬氏、小塚崇彦氏、  
大会に出場するアスリートも参加し、活動及び大会の PR を実施した。

##### ②B. hope×SON×みなみの杜～ユニファイドスポーツフェスタ～の開催(1月17日)

パートナーシップを締結している B.LEAGUE Hope と B リーグオールスターの活動の一環でユニファイド  
スポーツフェスタを、大会の PR を兼ね、みなみの杜高等支援学校の体育館で開催。

③Bリーグオールスター2020 in HOKKAIDO での PR 実施(1月18日)

Bリーグオールスター2020 の場で、ドリームサポーター阿部雅司氏、渡邊拓馬氏が大会を PR。また、会場である“きたえーる”で、アルバルク東京と大会サポートチームのレバンガ北海道と、PRブースを出展した。

④『出前授業』にて大会 PR ポスターを制作(1月27日)

札幌市との共催で、ドリームサポーター小塚崇彦氏が、大会に向けての出前授業を真駒内公園小学校にて実施し、生徒と共に大会 PR ポスターを制作した。

⑤NHK 札幌放送局の「ひるまえナマラ！」での大会 PR(2月6日)

有森大会会長が NHK 札幌放送局の「ひるまえナマラ！」に出演し、大会の PR を行った。

⑥トークイベントにおける大会 PR(2月7日)

大会直前の PR を目的に、北海道新聞社と共催でトークイベントを開催。

## 2) その他 トピックス

①特設サイト「Be with all」の開設(開設日:4月14日)

新型コロナウイルスの感染が拡大していく中で、SON アスリートへの応援を目的に開設。

有森理事長やドリームサポーター、トヨタ自動車運動部からの応援メッセージ、また「いまできること」として自宅のできるトレーニングなどの有益な情報を掲載した。

<サイト URL><https://sonippon.wixsite.com/bewithall>

②特設サイト「”心ひとつに、One Heart , One Mind”」開設(開設日:5月28日)

新型コロナウイルス感染拡大により、直接会い、エールを交換し合うことが出来ない中、

世界、日本のスペシャルオリンピックスアスリートとトヨタ自動車株式会社社員が、

“バーチャルハイファイブ”で繋がることを目的に開設。

<サイト URL><https://sonippon.wixsite.com/oneheart-onemind>

③新広報事業「アスリートアンバサダー」の始動

※詳細は V. 3「アスリートアンバサダー」を参照

<サイト URL><https://www.son.or.jp/athlete/story/index.html>

④MISIA クリスマスチャリティアルバムに係る広報活動

歌手の MISIA がクリスマスチャリティアルバム「So Special Christmas」を11月18日にリリース。

リリースに際して、下記の広報活動を行った。

<同アルバムリリースとあわせて行われた広報活動>

- ・「So Special Christmas」SON 特設サイトを開設
- ・一般財団法人 mundef 主催の企画展「MISIA SO SPECIAL CHRISTMAS exhibition」に特別協力
- ・「Marunouchi Bright Christmas 2020」点灯式にアスリートが参加
- ・NEWS23(TBS テレビ)「MISIA x スペシャルオリンピックス」特集企画放送(12月17日放送)

⑤SON 紹介冊子の作成

スペシャルオリンピックスの理念や活動内容を効果的に伝えるために、配布対象や用途に合わせ、パンフレット2種類、リーフレット1種、計3種類の広報用の冊子を作成。



## 2. 資金調達(寄付・マーケティング)

- ・財政の安定的基盤を固められるよう企業、個人への資金調達活動を行った。
- ・ユニファイドスポーツをはじめとした SO の魅力やリソースを活かした企業連携による資金調達を行った。

### 1) 新規支援先

株式会社セールスフォース・ドットコム \*フレンドシップスポンサーとして 2020 年度から支援開始

### 2) 既存支援先

コロナ禍におけるスペシャルオリンピックス日本の活動の状況や、今後の活動方針等を説明するため、オフィシャルスポンサーに対して全体、そして個別のオンライン会議を実施。

また、ナショナルパートナーである一般社団法人日本ライオンズとは、2017 年 6 月に締結したパートナーシップをさらに進め、今後 2025 年まで継続することが決定した。

### 3) イベント・競技会による資金調達活動(既存支援企業含む)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当初予定されていた様々なイベントや競技会が中止となり、資金調達活動を積極的に実施することが困難であった。

### 4) 東京マラソン 2020 チャリティ事業 (東京マラソン 2020 は 2020 年 3 月 1 日(日)開催)

チャリティランナーの支援先団体として 272 名のランナーから支援を獲得し、寄付先団体(29 団体)の中でも SON は上位であった。「アクティブチャリティ」の参加者を対象に、ランニング合宿やランニング教室を実施した。また、チャリティランナーとの交流を目的としたトークショーを開催した。

※東京マラソン 2020 は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、一般の部は中止となった。

※アクティブチャリティ: 希望する寄付先団体が事前に出走権を確保し、独自のプロモーションによって寄付の呼びかけを実施する取り組み

### 5) その他

MISIA クリスマスチャリティアルバム「So Special Christmas」の収益の一部からの寄付。

※「So Special Christmas」の「So」にはスペシャルオリンピックスへの応援のメッセージが込められている。

## 3. 他団体との連携

### 1) 障がい者スポーツ・パラリンピック推進議員連盟 総会

日程: 3 月 10 日(火) 会場: 衆議院第 2 議員会館 第 1 会議室

### 2) 他の競技団体、障害者スポーツ団体等との連携及び連絡調整

#### ① 日本障がい者スポーツ協会

#### ② 日本スポーツチア&ダンス連盟

日本スポーツチア&ダンス連盟(Cheer Japan)との間に、協力提携に関する覚書の締結を結んだ。

日程: 11 月 28 日(土) 会場: オンライン会議システム「Zoom」

内容: チアリーディングにおける技術的な指導の提供や指導者養成、競技会運営のサポート支援等。

#### ③ 全日本ろうあ連盟スポーツ委員会

## VIII. 調査研究事業

### 1) スペシャルオリンピックス日本 25 周年記念誌の発行

2019 年の設立 25 周年を節目とし、国内スペシャルオリンピックス活動の歴史、活動実績等を総括した記念誌を、全国生活協同組合連合会助成事業助成金を活用し作成した。

部数: 1500 部 76 ページ

2) 日本生涯スポーツ学会第 22 回大会でのポスター発表

「知的障害のある人たちの生涯スポーツの普及・振興とスポーツイベント

ースペシャルオリムピックスのナショナルゲームに着目してー」

期 日:2020 年 10 月 31 日(土)~11 月 1 日(日)

会 場:仙台大学(宮城県柴田郡柴田町)にて WEB 開催によるオンライン参加

## XI. 会議開催等

### <評議員会>

定時評議員会 日時 : 3 月 26 日(木) 書面決議

### <理事会> 全 8 回

第 1 回理事会 日時:3 月 4 日(水)18:30~20:50 場所 : ForumS+西新橋 会議室(一部 Web 会議システムを利用)

第 2 回理事会 日時:3 月 9 日(月)18:05~20:00 場所 : SON 事務所会議室(一部 Web 会議システムを利用)

第 3 回理事会 日時:3 月 19 日(木)18:15~20:05 場所 : SON 事務所会議室(一部 Web 会議システムを利用)

第 4 回理事会 日時:4 月 24 日(金) 書面決議

第 5 回理事会 日時:5 月 28 日(木)18:35~20:50 場所 : SON 事務所会議室(一部 Web 会議システムを利用)

第 6 回理事会 日時:8 月 26 日(水)18:30~20:35 場所 : Web 会議システムにより実施

第 7 回理事会 日時:10 月 22 日(木)18:40~20:40 場所 : Web 会議システムにより実施

第 8 回理事会 日時:12 月 22 日(火)18:30~21:00 場所 : Web 会議システムにより実施

### <専門委員会>

#### 【地区委員会】 全 12 回

月 1 回 Web 会議システムを使用しての会議を開催した。

1 月 18 日(土)、2 月 8 日(土)、3 月 14 日(土)、4 月 11 日(土)、5 月 23 日(土)、6 月 13 日(土)、7 月 4 日(土)、  
8 月 22 日(土)、9 月 19 日(土)、10 月 17 日(土)、11 月 7 日(土)、12 月 12 日(土)

#### 【スポーツプログラム委員会】

Web 会議システムを使用して、スポーツプログラム委員会正副委員長会議を下記の日程で開催した。

2 月 29 日(土)、3 月 28 日(土)、8 月 22 日(土)、9 月 26 日(土)、12 月 12 日(土)

#### 【ヘルシー・アスリート®・プログラム委員会】

2020 年度は非開催

#### 【スポーツウェルネスチーム】全 6 回

月 1 回 Web 会議システムを使用しての会議を開催した。

1 月 23 日(木)、3 月 26 日(木)、4 月 23 日(木)、5 月 21 日(木)、6 月 25 日(木)、8 月 27 日(木)、  
10 月 29 日(木)、11 月 20 日(金)12 月 17 日(木)

#### 【調査研究委員会】

調査研究委員会会議(25 周年記念誌編集会議)

日時 : 3 月 6 日(土) 場所 : SON 事務所会議室(新型コロナウイルス感染拡大により中止)

Web 会議システムを使用しての会議開催

日時 :10 月 30 日(金)、11 月 16 日(月)、11 月 25 日(水)、12 月 18 日(金)